

「いま・ここ・わたし」とは、「いま・ここ・わたし」でしか出来ないことを極めていき、「いま」でもない・「ここ」でもない・わたしでもない「こと」を
目指すこと。

I. 普段、目常に流されているときは、「いま」も「ここ」も「わたし」も存在しない。流れの中で立ち止まってみたときに、はじめて、いま・ここ・わたしが発生する。

II. いま・ここ・わたしの純度を上げるためには、「いま」でなければできないこと「ここ」でなければできないこと「わたし」でなければできないことを、詰めていくこと。

III. そして、究極に目指すのは「いま」でも「ここ」でも「わたし」でも「無い」もの！

(齋藤徹)

日時：2019年11月4日15時開演

*開場は開演の30分前

会場：いずるば

東京都大田区田園調布本町 38-8

www.izuruba.jp

出演：

矢萩竜太郎（ダンス）

川島誠（サクソ）

鈴木ちほ（バンドネオン）

マクイーン時田深山（箏）

ヤシャ・フィーシュテート（ダンス）

ハナ・クレブス（ダンス）

カール・ルンメル（ダンス）

皆藤千香子（ダンス）

コンセプト：

齋藤徹

即興パフォーマンス

in ば
る
ず
い
今
2
ド
ココ
0
イツ
1
×
日
本
日本とドイツのアーティスト達が
音、ダンスを通じてのコラボレーション

マクイーン時田深山（等）

即興、現代音楽、オリジナル曲を演奏する、オーストラリア生まれの箏奏者。ソロコンサートに加え、世界各国の音楽家との共演、海外フェスティバルでの招聘演奏も数多く、また新世代作曲家と協力し、現代人が面白い、聴きたいと思える音楽を等で作っている。

Vancouver Intercultural Orchestra、Australian Art Orchestra、日本フィルハーモニー交響楽団等と共演。2019年にはACGのグランティとして半年間ニューヨークに滞在し、現代音楽と即興に関わる。小田村さつき、沢井一恵に師事。東京在住。

ヤシャ・フィーシュテート

Jascha Vihstadt（ダンス）

1985年、ハンブルク生まれ。

ハンブルクコンテンポラリーダンススクール、Inter-University Center for Dance Berlin(HZT)にてマスタークラス卒業。

フリーランスのダンサー、振付家として、自作品を発表する他、Costa Compagnie、Anna Konjetzky、Raymond Liew、皆藤千香子などと、ヨーロッパ、アメリカ、マレーシアで活動している。

皆藤千香子（ダンス）

コンテンポラリーダンス、振付家・ダンサー。 Folkvanguard 芸術大学ダンス科、大学院振付家コース卒。 Folkvanguard タンツストゥーディオ（ピナ・バウシュ、ロドルフォ・レオーニ主宰）のダンサー、振付家を経て、2010年より主にドイツ、デュッセルドルフで定期的に新作公演を行う他、ヨーロッパ各地のダンスフェスティバル、日本、韓国で作品を上演している。

2009年と2012年に Kult・ヨース賞ノミネート、横浜ダンスコレクション Masdanza 賞、およびグループ部門2位、ソロ部門審査員賞などを受賞。

鈴木ちほ（バンドネオン）

バンドネオン奏者。幼少期からピアノとパーカッション、和太鼓、映画美学校にて音楽理論、レコーディングを学ぶ。アストロ・ピアソラの音楽に感銘をうけバンドネオンを始める。音楽全般を齋藤徹、ボイスを宅 noisy 朱美に師事。2013年より「惑星ボルチーニ」を主宰。メンバーに岩見継吾氏（コントラバス）、荻野やすよし氏（ギター）を迎えフリージャズに挑む。齋藤徹、藤井郷子など日本のミュージシャンの活動の在り方に多大な影響を受け、ジャンルレス、即興音楽を中心に企画、活動中。

即興パフォーマンス
in
いずるば
今こわたし
2019
ドイツ×日本

ハナ・クレブス

Hannah Krebs（ダンス）

ケルン、デュッセルドルフ、ストックホルムで活動している、ダンサー・振付家。 Hochschule für Musik und Tanz Köln とストックホルムのダンス・サーカス大学でダンスの学士号を取得。

ダンサーとして、Michael Löhr/Emanuel Gat、Nature Theater of Oklahoma、Ellen Söderhult、皆藤千香子の作品に出演。

チケット情報：

前売 2000 円、当日 2500 円

お問い合わせ、ご予約：

chikakokaido@gmail.com

カール・ルンメル

Karl Rummel（ダンス）

1993 年生まれ。 Hochschule für Künste Bremen でデザインを学ぶ。デザイン、写真、インスタレーション、パフォーマンスを融合させた作品を作っている。

振付家 Ivo Dimchev、Emily Roysdon、Edit Kaldor、Samir Akika、皆藤千香子などの作品を踊る他、ブレーメン市立劇場で Samir Akika の作品に出演。

矢萩電太郎（ダンス）

ダウン症を持つダンサー。1990年、ヴォルフガング・シュタングのワークショップ参加をきっかけにダンスを始める。2010年ドイツで行われたジャン・サスポーラスと齋藤徹主催のダンスと音楽のパフォーマンスに参加。好評を博し、2014年日本での6回公演を経て、共にドイツツアーを成功させる。これらの詳細をドキュメンタリー映画として「ダンスとあって」、2019年には第2作「ぼくのからだはこういうこと」（監督・近藤真左典）を発表。ダンスのスタイルは常に「即興」。かたちに捕われない自分自身の表現を目指す。

写真：前澤秀登

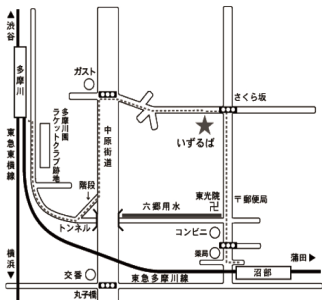
グラフィックデザイン：濱脇奏

川島誠（サックス）

アルトサックス奏者。2008年から即興演奏を始める。

2015年に P.S.F.Records からソロアルバム「HOMO SAGER」を発表。2018年、望月治孝とのスプリットLP「Free Wind Mood」をフランスのレーベル Anarchives から発表、セルビアの国営放送 RTS で放送される。また、先述のソロアルバムがアメリカ、Black Editions から再発売されることを記念したアメリカツアーが2019年9月より NY、LA、サンフランシスコにて行われるなど、国内外でソロを中心に活動を続けている。

アクセス方法：



公演協力：いずるば

助成：デュッセルドルフ地方政府
/Bezirksregierung Düsseldorf

Ministerium für
Kultur und Wissenschaft
des Landes Nordrhein-Westfalen

